

# 岡山県高梁市 人口 26,688人 面積 546.99km<sup>2</sup>

視察日時 令和5年11月9日(木) 午後1時45分～3時30分

視察場所 高梁市役所：岡山県高梁市松原通2043番地

## 1 市の概要・歴史

岡山県の中西部に位置し、広島県と境を接する。中心部は備中松山藩の城下町であり、山城の松山城(備中松山城)で知られる。古来から備中国の中核として繁栄し、近世では幕藩体制のもと備中松山藩を中心として、また近代以降においても政治、経済、教育の中心地として栄えてきた

平成16年10月1日に旧高梁市を含む1市4町が合併し現在の高梁市が誕生した。

## 2 視察の目的

住もうよ高梁推進課を中心に移住・定住に積極的に取り組んでおり、お試し暮らしや子育て世帯引越し助成事業など、移住や子育て世帯に優しいメニューが豊富にある。今回少子化対策の手がかりとして視察したものである。



## 3 視察項目「定住サポート制度」について

### (1) 空き家情報バンクの概要

高梁市では、平成19年度に空き家情報バンクを創設して以降、岡山県でトップの登録数・成約数を誇っている。

- ・令和4年度の登録数 86件(過去最高)  
バンク創設以来の登録数 524件
- ・令和4年度の成約数 39件  
バンク創設以来の成約数 387件

◎市外居住者の利用が高く、関係人口の増加に効果がある。

- 補助内容
- ・空き家購入(上限100万円)
  - ・家財処分(上限20万円)
  - ・修繕改修(上限30万円)

## ○空き家情報バンク・移住の課題

少しの修繕で利用できる空き家物件が不足している。様々な移住定住希望者のニーズに応えていくためには、物件の更なる掘り起しを行い、利活用を進めていくことが必要と考えている。

## (2) 若者定住促進住宅助成金

### ①住宅助成制度

次世代を担う若者の定住促進を図るため、「若者・子育て世帯」に対して助成金を交付

(※若者：40歳以下、子育て世帯：15歳未満を養育する世帯)

- ・用地取得（対象：購入費200万円、補助率1/10 上限100万円）
- ・住宅建設（3世代同居・近居の場合、上限100万円）

(市役所や旧町役場周辺の居住誘導区域の場合は10万円の加算あり)

令和4年度実績：32件 31,806千円

◎県下でも補助額はトップクラスで、年間35件前後の申請がある。市内居住者の利用が高く、流出抑制に一定の効果があると考えている。

### ②住宅リフォーム制度（空き家購入後の改修を含む）

次世代を担う若者の定住促進を図るために、15歳以下の子を養育する子育て世帯に対して助成金を交付。

工事費100万円以上が対象で、補助率1/10

(3世代同居 上限100万円、それ以外 上限50万円)

## (3) まちづくり結婚推進連絡会補助金

○結婚適齢者の結婚を推進するために、市内の各まちづくり団体から推薦を受けた18名が結婚推進活動に取り組んでいる。主として民間会社へ委託し、近隣1市1町と合同でイベントを実施している。(年3回程度)

令和4年度実績 開催3回 参加者 65名 カップル 12組

経費 594千円

◎これまでは、イベント開催を主としていたが、成婚に至るケースがないことから、10月から民間会社のマッチングアプリを利用し、成婚に向けた支援を開始した。(結婚応援プロジェクト事業)市内の企業30社へ訪問し、PR活動を行った。

※各事業の課題は、国や県の補助事業が少なく、財源の確保が困難であること。また、令和2年度～令和4年度に住宅関係の補助制度利用者からアンケートを取った結果、補助制度とは関係なく高梁市に住み続けるとの回答があ

り、補助制度自体が定住への効果を発揮してきたのかは疑わしい結果となったとのこと。これまでは、補助金制度を充実させることが人口流出の抑制になると考え、補助額の増額に注力してきたが、今後は補助額を減額し、対象者を広げる方向に転換するとのことである。

#### 4 主な質疑応答

##### (問)

住宅を建てる際の補助は市内のどこでも同じか。申請が多いエリアは。また、面積などの大きさは関係あるのか。

##### (答)

どのエリアも差はなく、居住誘導区域（庁舎周辺）の申請が多い。また、大きさに関係なく補助している。

##### (問)

空き家バンクの登録が多い理由は。

##### (答)

市内のまちづくり協議会にPRしているほか、固定資産税の納税通知書用の封筒を利用し周知していることが考えられる。

##### (問)

空き家の家財処分の助成は、元の所有者が対象か、それとも購入した後の者が対象か。

##### (答)

どちらでも構わない。処分した者に対して助成している。

(問) 定住サポート制度の一覧がパンフレットにまとめられていていいと思う。施策ごとにQRコードを付けるともっといいと思う。白山市でも取り入れたらと思うが、これは、住もうよ高梁推進課で作ったのか。

##### (答)

ホームページに同じものを掲載していて、それは各課の施策に飛べるようにしている。1つの施策ではなく、いろいろな施策が移住・定住に繋がってくるので、このようなものを作っている。取りまとめたのは、住もうよ高梁推進課だが、内容や選択はそれぞれの課で考えてもらった。



**(問)**

高校や大学を卒業した人が市内で就職することはあるのか。また、それに対する支援策はあるのか。また、保育園留学とは。

**(答)** 自動車部品を作る会社が幾つかあり、そこへ就職する方もいる。また、事務系の就職先が市内には少ないため、大卒者はほかの市町村へ出ていくことが多い。就職に対する支援はない。

保育園留学は、日常から離れた地域と保育園で、のびのびと子育てができる暮らし体験プログラムだ。モデルとして今年の7月に愛知県在住の4人家族を招き、2週間の体験をしてもらい、感想などを聞き取った。それをもとに内容を改善した上で現在募集をかけている。



**(所感)**

白山市にはない施策もたくさんあり、参考となるものが多かった。また、定住サポート制度の一覧(パンフ)は、住まい、結婚、子育て、就労などの情報が一連にまとめられており、本市にも取り入れたいものだと感じた。

**岡山県勝田郡奈義町** 人口 5,765人 面積 69.54 km<sup>2</sup>

## 全国子育て応援会議「こどもまんなかアクション」 リレーシンポジウム in 奈義町

視察日時 令和5年11月10日（金）午前10時～2時30分

研修場所 奈義町文化センター：岡山県勝田郡奈義町豊沢327-1番地

### 1 町の概要・歴史

奈義町は岡山県の北東部、中国山地の秀峰「那岐山」の南麓に位置しており、南部は日本原高原と呼ばれる高原となっている。陸上自衛隊日本原駐屯地と日本原演習場がある。平成14年に津山市や勝田郡内の他の町との合併が議論されたものの、いずれの市町村とも合併しないことを決定した。平成24年に子育て応援宣言をしている

### 2 研修の目的

令和元年の合計特殊出生率が2.95であり、子育て世帯に手厚い事業を行っている。今回、奈義町が主催する全国子育て応援会議「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 奈義町を聴講する。

こども家庭庁や奈義町の子育て支援に関する説明を聴き、今後の子育て施策の参考にするものである。

### 3 研修項目

#### (1)「こども政策の課題と展望」

(基調講演：こども家庭庁高橋審議官)

別添資料「こども政策の課題と展望」

～「こども未来戦略方針」中心に～により説明

#### ○こども家庭庁とは

こども家庭庁のスローガンは「こどもまんなか」。これまでは大人中心になって作ってきた社会を「こどもまんなか」社会へと作り変えていくための司令塔。

#### ○こども・子育て政策の課題

- 1 若い世代が結婚・子育ての将来展望を描けない。



- 2 子育てしづらい社会環境や子育てと両立しにくい職場環境がある。
  - ・男性の育児休業は、制度があっても使いづらい。理由：収入を減らしたくない。職場が取得しづらい雰囲気、会社や上司の理解がないなど。
- 3 子育ての経済的・精神的負担感や子育て世帯の不公平感が存在する。理由：子育てや教育にお金がかかりすぎる。育児の心理的、肉体的負担に耐えられないなど。

## ○こども未来戦略方針を閣議決定（令和5年6月13日）

### 3つの基本理念

- 1 若い世代の所得を増やす
- 2 社会全体の構造・意識を変える
- 3 全てのこども・子育て世帯を切れ目なく支援する

### 「加速化プラン」～今後3年間の集中的な取組～

- 1 児童手当の拡充（令和6年10月分～）
  - ・支給期間を高校3年生まで延長
  - ・第三子以降を3万円（原稿1.5万円）
- 2 出産等の経済的負担の軽減
  - ・出産・子育て応援給付金10万円の制度化
  - ・出産育児一時金の引き上げ42万円→50万円など

## （2）「奈義町少子化対策」～町全体での子育て～（奈義町役場職員）

別添資料により説明

### ○奈義町存続のため「人口減少」が最大の課題

- ・定住促進のための対策  
子育て支援策、住宅施策、魅力ある教育、就労場の確保施策
- ・目標は現在の人口維持

### ○子育て応援宣言を公表（平成24年4月1日）

若者定住施策、就労対策、独自の子育て施策を積極的に進めてきた結果 **令和元年の合計特殊出生率「2.95」を記録**

### ○主な経済的支援

- ・保育料が国基準の約半額、第2子はその半額で第3子以降は無料
- ・小中学校の給食費の半額を町が負担



- ・大学生に町独自の奨学育英金（卒業後に町への定住で全額返済免除）ほか

### ○高い合計特殊出生率の鍵は「安心感」

住むところがあって安心、働くことができ安心、子育ての負担が軽くなって安心、子育ての悩みや喜びが共有できて安心、町のみんなが子育てを応援してくれて安心

### 現地視察

#### ○なぎチャイルドホーム

子育て世代が気軽に通える施設として開放。常駐する「子育てアドバイザー」に育児相談にのってもらったり、子供の社会的経験の場となるような活動を行っている。



#### ○奈義しごとえん

奈義町に住んでもらうことを目的に仕事（手伝い）の場を提供。  
1日に1～2時間でも自由に働くことができる。

会員300名 20歳代～90歳代までが登録している。

仕事内容：草刈、トイレ清掃、ドローン散布、衣服の名前付け、  
封入・ラベル張り、郵便物の振り分けほか

- ・高齢者が子育てママの悩みに共感
- ・子育てママとの交流で高齢者も元気に！